

# 平成28年度 学校自己評価システムシート (県立富士見高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人に行き届いたきめ細やかな指導を行い、地域に開かれ信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒理解に基づきながら、生徒の基本的な生活習慣や規範意識等の育成と指導の徹底を図り、自立心を育む。</li> <li>2 特進クラスなどクラス編制等や授業展開の工夫等により、学習指導体制を充実させ、生徒個々の確かな学力の定着と学力向上を図る。</li> <li>3 地域社会との連携を深め、社会の一員としてたくましく生き抜く心と身体を育み、地域の核となる学校づくりを推進する。</li> </ol>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 1 月 3 1 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>・きめ細やかな生徒指導に全職員で取り組んできた結果、生徒の規範意識が向上し、中途退学者も前年度より減少している。一方、基本的な生活習慣の確立が不十分で、遅刻や欠席を繰り返す生徒が若干見られる。</p> <p>・今後も生徒の規範意識向上と基本的な生活習慣の確立に向けた取組を全教職員で粘り強く続けていくとともに、中途退学防止に向け、学校生活に目的意識を持たせる取組を実施していく必要がある。</p>	生徒の規範意識向上と基本的な生活習慣の確立を図り、中途退学者数を減少させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①立哨指導を毎朝実施するとともに、月毎に遅刻回数が多い生徒に対して特別指導を実施する。</li> <li>②問題行動を未然に防止するため、日々の校内巡回を徹底しつつ、携帯安全教室や非行防止教室、全校集会、いじめ防止アンケート等を実施する。</li> <li>③生徒が学校生活に目的意識を持てるよう、部活動をより活性化させるとともに、ボランティア活動や交流活動を奨励する。</li> <li>④PTAと連携して、朝の校門立哨時に併せて毎月「あいさつ運動」を実施する。</li> <li>⑤保護者に本校の教育活動への理解を深めてもらうため、学校行事を実施する際には文書やメール等で積極的に来校を呼びかける。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①欠席者率・遅刻者率の前年度比減少、皆勤者率の前年度比増加</li> <li>②生徒指導件数率の前年度比減少</li> <li>③中途退学者率の前年度比減少</li> <li>④年間11回の実施</li> <li>⑤学校行事への保護者参加数の増加</li> </ol>	<p>概ね達成できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①基本的な生活習慣を確立させるため、毎朝の立哨指導や毎月の遅刻指導を継続的に実施した結果、遅刻者率、皆勤者率ともに前年度並みの数値を維持することができた。</li> <li>②日々の校内巡回の他、携帯安全教室(4月)、非行防止教室(5月)、薬物乱用防止教室(6月)、いじめ防止アンケート(6月、11月)を実施し、問題行動の未然防止に努めた。指導件数率は前年度と比較して増加したが、指導対象生徒数は減少した。</li> <li>③1学生全員に部活動加入を勧めた結果、年度当初部活動加入率は82.9%まで上昇した。また、ボランティア活動、交流活動等を奨励し、ボランティア参加者延べ109名に校長表彰を行った。中途退学者率は前年度と比較して減少した。</li> <li>④これまでに予定通り9回「あいさつ運動」を実施し、延べ85名の保護者の参加協力を得た。</li> <li>⑤学校行事の案内メールをこれまでに27回配信した(前年度26回)。その結果、体育祭やあいさつ運動における参加保護者数は前年度並みの数値を維持することができた。</li> <li>⑥部活動やボランティア活動、交流活動等を奨励した。中途退学者率は前年度と比較して減少した。</li> </ol>	B	1学期を終了した時点で欠席者率が昨年度の数値を下回っていただけに、2学期以降における欠席者の増加が残念である。今後は生徒達の規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立に向けた取組の強化について改めて全教職員で共通理解を図り、一致団結して取組を推進していく必要がある。また、現時点では中途退学者数は前年度より減少しているが、未だ他校への転学者を含め進路変更する生徒が少なからずいることから、部活動や学校行事の内容充実等による「魅力ある学校生活」の創出について検討し、生徒達がより積極的に学校生活に取り組める環境の整備を推進していく必要がある。
2	<p>・少人数学級編制や習熟度別授業によるきめ細やかな学習指導により、全体的に学力に向上傾向が見られる。また、3年間を見通した進路指導により、進路実績も向上している。一方、授業の予習・復習を含めた家庭学習の定着が不十分な生徒も見られる。</p> <p>・今後も、少人数学級編成や習熟度別授業の効果的に展開して、生徒の学力向上に向けて質の高い授業を実施するとともに、1年生の段階から進路意識を高め、家庭学習を定着させる指導を実施する必要がある。</p>	生徒の学力を向上させ、進路希望の実現につなげる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業改善を図るため、授業公開週間(5月、11月の年2回)、「未来を拓く『学び』プロジェクト」における公開研究授業を実施する。</li> <li>②授業アンケートを年2回(7月、12月)実施・検証し、その結果を授業改善に活かす。</li> <li>③授業改善をテーマにした研修会を行う。</li> <li>④基礎学力を定着させるため、定期考査前や長期休業期間に補習を実施する。</li> <li>⑤学力の向上とともに達成感を育むため、各種検定試験の受験を奨励する。</li> <li>⑥生徒の進路意識を高めるため、キャリアガイダンス等進路行事の内容を充実させるとともに、進学希望者に対し補習を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業公開週間、「未来を拓く『学び』プロジェクト」に公開研究授業の実施及び参観状況</li> <li>②授業アンケートの年2回(7月、12月)の実施及び検証</li> <li>③研修会の実施状況</li> <li>④成績優良者率の前年度比増加、成績不振者率の前年度比減少</li> <li>⑤検定試験受験者率の前年度比増加、合格者率の前年度比増加</li> <li>⑥大学進学者率の前年度比増加、就職内定率100%達成、進路未確定者数率の前年度比減少、全学年で進学希望者補習の実施</li> </ol>	<p>ほぼ達成できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業公開週間(5月、11月)、『未来を拓く「学び」プロジェクト』における公開研究授業(11月)を実施し、県内外から多くの参加を得た。</li> <li>②授業アンケート(7月、12月)を実施し、授業改善に取り組んだ。</li> <li>③11月10日に職員対象の授業改善研修会を実施し、全職員でアクティブラーニングの必要性を確認した。</li> <li>④各定期考査前や夏季休業、冬季休業における補習を継続して実施し、朝補習の開催回数を増加させた結果、成績優良者率が増加した。</li> <li>⑤昨年度に引き続き「漢字検定」、「英語検定」、「ビジネス文書実務検定」、「珠算・電卓実務検定」を実施し、多くの検定にて受験者率、合格者ともに増加した。</li> <li>⑥キャリアガイダンスの内容を充実させるとともに、進学希望者を中心に全学年で補習を実施した。就職内定率の100%の達成、看護医療系学校への合格者数を過去最高の12名まで伸ばすなどの成果を上げた。</li> </ol>	A	きめ細やかな学習指導により、全校生徒の2割が成績優良者となった。また、3年連続でビジネス文書実務検定1級合格者を出した。進路指導においては、今年度は3年間を見通した継続的な補習の実施などが功を奏し、医療看護系学校への合格者数を過去最高値まで押し上げるなど、成果を上げている。今後もアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れていくなどして生徒達に「わかりやすい授業」を提供し、生徒達が学習意欲をより一層沸き立たせ、進路実現に向けて自主的に学力の向上を図る気運を醸成できるよう、学習指導の充実に取り組んでいく必要がある。
3	<p>・近隣学校との交流、市内行事への積極的なボランティア参加、地域清掃等により地域との連携が深まり、地域からの本校に対する評価は年々良くなっている。</p> <p>・安定した生徒募集に繋げるためや全職員による中学校訪問や積極的な広報活動を展開していくとともに、地域への貢献活動を推進していく必要がある。</p>	本校への理解が深まるよう、積極的に情報発信を行うとともに、地域との連携をさらに深める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①近隣の学校や介護施設等との交流活動、地域清掃活動を実施する。</li> <li>②生徒会主導による富士見市内行事等への参加を奨励する。</li> <li>③ホームページによる情報発信を積極的にを行う。</li> <li>④全職員による中学校訪問、学校説明会、進学フェア、体験入学を効果的に実施する。</li> <li>⑤「ファミ・インフォメーション」の発行などの積極的な広報活動を展開する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①近隣学校及び介護施設等との交流活動年5回以上の実施、交流活動の参加者率の前年度比増加、地域清掃の毎学期実施</li> <li>②地域行事への参加生徒数</li> <li>③ホームページの更新回数及びアクセス数</li> <li>④中学校訪問、学校説明会、進学フェア、体験入学等の実施状況</li> <li>⑤「ファミ・インフォメーション」の年4回の発行等</li> </ol>	<p>ほぼ達成できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①南畑小学校(1回)、つるせ台小学校(1回)、富士見特別支援学校(3回)の交流活動及び学校家庭クラブ等による介護施設主催イベントへのボランティア参加(2回)を実施し、前年度と同程度の参加者数を得た。</li> <li>②吹奏楽部や書道部など5つの文化部と生徒会による各種市内行事への参加回数を増加させ、地域との交流をさらに深めた。</li> <li>③ホームページにおける「校長ブログ」をほぼ毎日更新し、10万件を超えるアクセス数が4月からあった。(1月26日現在)</li> <li>④全教職員による中学校訪問を年間2回実施。学校説明会を3回、体験入学を2回実施。第1回学校説明会の実施時間を前年度のものから変更したり、体験入部実施日を増設するなど工夫した結果、前年度を上回る参加者数を得ることができた。</li> <li>⑤「ファミ・インフォメーション」を年4回発行し、近隣中学校及び富士見市内の公民館等に配布した。</li> </ol>	A	全職員による中学校訪問の実施時期を早めた。ホームページの更新においては、校長ブログのページをほぼ毎日更新し、各種地域行事への参加についても新規参加行事を増やすなど、前年以上に広報活動を積極的にに行った。併せて学校説明会の開催時間の変更や、体験入学開催日の増設など工夫を試みた結果、前年度と比較して説明会参加人数は増加した。今後も安定した生徒募集の実現に向け、既存の取組について検証を行いつつ、常に改善意識を持ちながら広報活動と地域への貢献活動をより一層推進していく必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年 2月 8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・丁寧で細やかな指導が継続されている。生徒が地域に出て活躍できるのは、生活習慣、学力面でしっかりしているからである。</p> <p>・「きめ細かい生徒指導」、「各指導における懇切丁寧さ」、「真面目な生徒」が富士見高校のよいところ。変えないでほしい。</p> <p>・落ち着いた授業風景は、日々の指導における努力の結果。それが富士見高校の良さである。</p> <p>・学級経営がしっかりと行われていることを評価したい。学級環境にも気を配られていることが生徒の落ち着きにつながっている。</p> <p>・数年前と比べて生徒の集中度が上がっている。生徒指導がうまくいっていないとできない。</p> <p>・「真面目な子が報われる」、「自分のレベルにあった勉強ができ、進路が決定できる」この点を富士見高校は続けてほしい。</p> <p>・自転車通学時におけるマナーについて、大半の生徒達はしっかりとしているが、時折「ながら携帯」など交通ルール違反をしている生徒を見かけることがある。</p>	
<p>・講義型の授業が多い印象を受ける。アクティブ・ラーニングの積極的な導入を期待する。</p> <p>・2020年に大学入試が大改革されるのは間違いない。知識を問う大学入試から、思考力・判断力・表現力を問う大学入試へと変わっていく。それに応えられるよう、アクティブ・ラーニングへの取組はすぐにも始めるべきである。今のままで止まってはいけない。</p> <p>・富士見市では小・中学校教職員を対象にアクティブ・ラーニングに関する研修会を開催する予定。富士見高校の教職員も参加してみたいかがか。</p> <p>・富士見市ではユニバーサルデザイン、シンプルデザインの授業(分かりやすい授業)の実践に取り組んでいる。参考にできる内容なので今後情報提供させていただきたい。</p> <p>・習熟度別の授業を学校の特徴としてさらに充実を図ってほしい。習熟の程度により、学習の道筋は異なってくる。発展・基礎・補充という習熟の程度別にカリキュラムを作成し、教科として日常的にカリキュラム検証を進め、習熟度別学習のカリキュラムを完成させてほしい。</p>	
<p>・富士見市関係行事に多数の生徒に参加していただいで感謝している。生徒の姿を市民の皆さんに見てもらうことが、学校内の様子を校外に発信することになるので、より積極的に多くの生徒達に参加していただきたい。</p> <p>・ボランティア活動に取り組んでいる生徒の様子もよい。特に近隣学校との連携の中で、ボランティア活動の日常化が図られつつある。そのような経験が、富士見高等学校の生徒が高校生としての在り方を考える機会になっている。</p> <p>・市教委及び東中学校で中学生を対象とした補習の実施を企画している。富士見高校生にボランティアとして学習サポートをお願いしたい。</p> <p>・これからも無理しないで様々な地域活動に参加してほしい。</p> <p>・ホームページ更新の努力は素晴らしいものがある。生徒にやりがいいを与え、保護者の理解にもつながっている。</p>	